

# チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 92 2013年3月16日発行  
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

## 講演会

### 「チェルノブイリと福島の子どもたち」

～ 子どもたちの未来のために今できること～

4月26日(金) 19時開演 文京シビック小ホール

(東京・文京区)



講演

木村真三

広河隆一

演奏

弦楽四重奏団オブリジェ

絵画展&  
写真展

4/8(月)～4/10(水)

文京シビック1F 展示室



(講演会・絵画展&写真展の詳細は次ページ)

チェルノブイリ27周年救援イベントの賛同金を募集しています。  
一口1000円。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

# チェルノブイリ 27 周年救援イベント 2013 年 4 月



チェルノブイリ原発事故から 27 年、福島原発事故から 2 年、それぞれの被災地の状況を知り、今後どのような支援が必要かについてみなさんとともに考えていくために、「講演会」「絵画展 & 写真展」を開催します。

## 講演会

「チェルノブイリと福島の子もたち」  
子どもたちの未来のために今できること  
4/26 (金) 19:00 開演

文京シビック 小ホール (東京都文京区)

最寄駅: 東京メトロ「後樂園駅」、都営地下鉄  
「春日駅」 / 入場料: 1500 円・学生 1000 円  
(中学生以下無料)

< 講演 >

### ◆木村真三

(獨協医科大学准教授、国際協力支援センター  
国際疫学研究室福島分室 室長)

木村さんは福島県内各地で放射線量を計測し、土壌や植物などのサンプルを採取。それをもとに、詳細な「放射能汚染地図」を作成。その模様は NHK ETV 特集「ネットワークで作る放射能汚染地図」で放映され大きな話題となりました。現在もチェルノブイリと福島の実地調査に頻りに通っていらっしやいます。チェルノブイリと福島の詳細情報を講演してください。

### ◆広河隆一

(フォトジャーナリスト・DAYS JAPAN 編集  
長)

チェルノブイリ子ども基金の設立者である広河さんは、福島原発事故による被災児童のための保養所「沖縄・球美の里」を設立。昨年 7 月に開設以来、多くの子どもたち、母子が「球美の里」で保養を行いました。福島の子もたちの保養の様子を、映像をまじえながら講演されます。また、福島の子もたち、お母さんたちの今の声も紹介します。

< 演奏 >

### ◆弦楽四重奏団オブリジェ

- ・新行寺ひろ子 (第 1 ヴァイオリン)
- ・松崎みを (第 2 ヴァイオリン)
- ・大山菜穂子 (ヴィオラ)
- ・藤塚紗也香 (チェロ)

武満徹: 小さな空、A ピアソラ: Oblivion  
など 4、5 曲を演奏していただく予定です。

大山さんは、98 年子ども基金がベラルーシの「希望」で開催した“日本週間”で子どものためのヴァイオリン教室を開きました。東日本大震災チャリティコンサートなどを開催し、被災地の子どもへの支援を行っています。

## 「絵画展 & 写真展」

4/8 (月) ~ 4/10 (水) 10:00 ~ 20:00

文京シビック 1F 展示室 2 入場無料

◆絵画展: 「2013 年チェルノブイリ救援カレンダー」に描かれた、チェルノブイリと福島の子もたちの絵を中心に、約 50 点を展示します。

◆広河隆一写真展 チェルノブイリ & 福島

[主催] チェルノブイリ子ども基金 / チェルノブイリ子ども基金・文京 / 未来の福島子ども基金

[予約受付・問合せ先]

チェルノブイリ子ども基金

Tel/Fax: 03-5228-2680

E-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp

\*各地のチェルノブイリ関連イベントは p. 14 に掲載しています。

☆イベント開催のための賛同金を募集しています。一口 1,000 円  
郵便振替口座 00160-4-98316 チェルノブイリ子ども基金

## 支援報告



ニュース 91 号 (2012 年 12 月発行) に掲載した支援について、現地よりお礼と報告が届きました。

### ウクライナ 「内分泌研究所」

子ども基金が支援したカルシウム剤と体内放射線残存量測定機が、昨年 12 月末、「内分泌研究所」に届きました。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

#### チェルノブイリ子ども基金のみなさま

カルシウム剤と体内放射線残存量測定器をご支援いただきましたことを、心よりお礼申し上げます。これらは患者の治療過程において大変重要なものです。この測定器のおかげで、今後、患者の放射線測定の問題が解決されるでしょう。日本のみなさまからの、ウクライナのチェルノブイリ事故被災者のためのご支援に、深く感謝しております。

新年のお祝いを申し上げます。皆様のご健康とお幸せ、活動のご成功をお祈りいたします。

2012 年 12 月 28 日

内分泌研究所 所長 N・トロニコ  
放射線核種診断部門 副部長 V・マルコフ



(写真上) 甲状腺患者が放射性ヨード治療を受けた後、体内に残っている放射線量を調べるための測定器。

## ベラルーシ

### 「困難の中の子どもたちへ希望を」

腫瘍病の子どもたちを会員にもつこの団体が開催したクリスマス会のプレゼント費用の一部(お菓子セット・果物・プレゼント用袋の購入費用)を支援しました。会には 50 人の子どもとその親たちが参加。全員がプレゼント(上記の他、ぬいぐるみ等)を受け取りました。なかでも家計が厳しく、より深刻な健康上の問題を抱える子どものいる 33 家族には、地元の企業から提供された食料品(小麦粉、砂糖、食用油等)も手渡されました。また、地元の大学の学生たちがボランティアでジェッド・マロース(直訳すると「厳寒おじいさん」。サンタクロースとは少し違います)や雪娘に扮し、子どもたちを楽しませました。

入院・自宅療養などのため幼稚園や学校に行けない子どもにとって、友だちと会える楽しい場となり、また親同士にとっても大切な交流の場となりました。



## ベラルーシ「希望21」訪問 2013年2月



小寺理事の引率で8人の若者がベラルーシの子ども専用サナトリウム「子ども健康回復センター 希望21」を訪問。施設や保養の様子を見学、所長をはじめ子どもの世話をする職員たちと対話をもった。また、保養中の子どもたちのための教室（折り紙、工作、日本語等）を開いた。1日はミンスク市に出かけ、子どもの頃に

甲状腺がんの手術を受け、現在は母親になっている家族や、甲状腺がんの手術を受けた子どもたちを支えてきた団体のスタッフたちとも対話をもった。

参加したうち6人の学生は、4月から小学校の教師、保育士となる。彼らの目にベラルーシの子どもたちの様子はどのように映ったのか、そして日本の今と将来をどう考えたのか。

### 福嶋 祐子 (京都橘大学4年生)

汚染地域に住む子どもたちの健康状態はどうなのか、日本人の開く教室に本当に人が集まるのだろうか。子どもたちは私たちに興味を示すのだろうか。そうした様々な不安を抱えたまま、今回の旅は始まりました。

「希望」に着いてみると、職員の方が明るく元気なこと、施設の敷地が広いこと、遊具がたくさんあること、子どもたちから挨拶をしてくれることに驚きました。暖かくて明るい人たちとの出会いによって、私が抱えていた不安は少なくなっていました。特に驚いたことは、元気に見える子どもたちが治療（※）を楽しみにしていたことです。また、ここに来て放射能汚染から逃れられるだけでなく、充実した施設の中で仲間と過ごす時間が、本当に楽しいのだということが伝わってくるようでした。日本にいる時の問題意識と、現地に行った時の問題意識は変わっていくのだと感じました。5年生から8年生までの子どもたちと交流の時間があり、お互いに自己紹介をしたり、質問をし合ったりしました。最後に花の形をした色紙が全員



に配られ、そこに自分の願いなどを書き、木の絵が書かれたボードに貼りました。そこに書かれた子どもたちの想いや願いを知って、私は思わず胸が熱くなりました。「福嶋の子どもたちが“希望”に来られますように」「日本の子どもたちが幸せに暮らせますように」「“希望”の繁栄を祈ります」「ここに来る全ての子どもたちが楽しく過ごせますように」などと書かれていたのです。最後に「希望」を離れるとき、「また来て下さい」という言葉をたくさんかけて頂きました。この言葉を

聞いたとき、ベラルーシに来る前に小寺先生に言われた「自分たちに関心を持ってくれる人がいる、自分たちは忘れられていないんだ、そう思ってもらうだけでも十分」という言葉を思い出しました。こちらに来る前は、「それだけではなく何か役に立って帰ってきたい」と思いました。しかし、「忘れられていないと思ってもらうだけでも十分なのだ」ということが、この時に初めて少しわかったような気がしました。（※「希望」で行われているマッサージ、水圧による水治療、サウナ療法など。）

◎ 水上 翔子 (京都橘大学4年生)

チェルノブイリ原発事故により放射能の被災にあった子どもたちが保養しているサナトリウム。子どもたちに出会うまでは、どんな顔をして会えばいいのか、どう接すればいいのかと戸惑いの気持ちでいっぱいでした。私は、東北被災地ボランティアにも行きましたが、国籍が違うだけで違う緊張感に襲われました。しかし、私が想像していた以上に子どもたちの笑顔と元気な姿があり、子どもたちのほうから寄り添い、私たちを快く受け入れてくれる姿がありました。

最も心に残っているのが、子どもたちと交流をした時に「治療を受けている時が一番落ち着く」という子どもの発言です。そんな子どもたちが願うことは、自分を含め周りの幸せなのです。ここが子どもたちにとって「生きる希望」なのだと思います。私たちの開いた教室でも、説明に一生懸命耳を傾け、言葉が通じないけれど私たちを見つけると手を振ってくれたり挨拶をしてくれたり、逆に私たちが子どもたちから元気をもらっていました。東北被災地ボランティアで感じたことがここでも生じてしまいました。「なにかできることはないか、なにかしたい!」と思って来たはずなのに、毎日美味しい食事を用意してもらい、私たちの生活に不便がないように動いてくださり、思い返すたびに胸がいっぱいになります。

所長のマクスンスキーさんのお話の中で、「力を持つ人が集まって大きなことができる」というのがありました。食堂の方、掃除の方、運転手さん、先生、副所長さん、私たちの世話をしてくれたタチアナさん……。職員一人ひとりの力が集まって「希望」が成り立っている。そういうこと

ではないかと思います。もう一つ、マクスンスキーさんが言われていた「可能性はある」という言葉が心の中に残っています。可能性を信じるマクスンスキーさんの気持ちが職員の心を一つにしているのだと思いました。

救援団体「チェルノブイリのサイン」(※)の元スタッフの方のお話が始まったとき、私の中で緊張が走りました。普通では絶対に関わることなんて考えられない方たちであり、厳格な雰囲気を感じたからです。しかし、お話をされているとき、涙を浮かべている姿を見て、同じように涙を見せる佐々木さんの通訳を聞いて胸が痛くなりました。すごい立場の人であっても同じ人間であり、一人の母親なのだと思います、時が過ぎても事故で受けた心の傷は残り続けるのだと感じました。

実際に現地に行くと、自分はチェルノブイリ事故について知らな過ぎなのだと改めて痛感し、すごく失礼なことだと申し訳ない思いになります。遅いけれど、今回で学んだことを思い返すと同時にしっかりと勉強しようと思いました。事故の事実を知る、これが、私がしなければならない初めの一歩だと思います。東北ボランティアもいつのまにか自分の経験として終わっているところもあります。ここで終わりにしてはいけない、したくない。たくさんの人たちに伝えることはもちろん、何らかの形で子ども基金に関わっていきたいと思いました。

私は4月から小学校の先生になります。目の前の子どもたちに事故のことを話すのは難しいことかもしれませんが、自分がしたことや、学んだこと、感じたことを話すことができるようにしたいです。また、健康で当たり前の生活がどんなに幸せなことかという意識を持ち続け、子どもたちと



一緒に1日1日を大切に過ごしていきたいです。この旅で、改めて自分自身を見つめ直すことや、たくさんの出会いがあり、多くのことを学ぶことができました。関わったたくさんの方みなさん、ありがとうございました。

(※甲状腺がんの手術を受けた子どもをもつ母親たちによって設立された団体。子ども基金は保養や医薬品を支援。団体は2009年に解散したが、元会員たちへの医薬品の支援は継続している。次頁に関連記事。)

### 谷口恵子 (京都橘大学4年生)

「希望」に行って子どもたちと触れ合うと、その元気さや明るさに驚かされました。子どもたちに会うまで、病気の子どもの一種の偏見を持って見てしまっていたと気付かされました。汚染地域に住んでいる、保養の必要があるということから子どもたちを可哀想だと思っている自分がいのように思います。しかし、症状は軽いように見えても、原発事故によって確実に子どもたちに悪影響を及ぼしているのだと改めて感じました。事故から25年以上経っても、子どもたちへの健康被害が減ったと安心せず、保養を続けるベラルーシの取り組みを見て、日本ももっと子どものために動かなければならないと強く思います。しかし、何もできない自分に腹立たしさを覚えます。交流する中で、ここの子どもたちが純粋に福島の子どものことや日本の人々を心配してくれていることを知り感動しました。自分たちの置かれている状況と福島の子どもの状況をどこまで重ねているのか深く聞くことはできませんでしたが、日本の復興や子どもの安全を真剣に考えてくれていることが伝わ

ってきました。

「希望」の職員の皆さん、子どもたち、環境から与えられるものは多くありましたが、私自身が何か返せるものは見つかりませんでした。これから教師になって、子どもたちにチェルノブイリについて、「希望」について、福島原発事故について、どのように話すのか考えていこうと思います。私の見たままを伝え、ベラルーシの子どもの様子から何か感じてくれればと思います。

### 峰 奈穂 (京都橘大学4年生)

ベラルーシは財政が厳しく、裕福な国ではないと聞いていたのですが、「希望」には最新の医療機器が多数あるなど保養施設の充実さに驚かされました。しかし、それは保養がどれだけ重要な役割を果たしているかということを表しているのだとあとから気がつきました。

日本では原発事故に対しての対応が十分に行われていません。それを知った現地の方の「日本は裕福であるにも関わらずなぜ何も対策しないのか。どうして放射能を大丈夫だと言っているのか」という言葉が今でも頭から離れません。また、保養施設にいた子どもたちが福島のことをとても心配してくれていました。これは、放射能について十分に教育を受け、恐ろしさを理解しているからです。日本では放射能の恐ろしさを正しく伝えられているのでしょうか。今回の原発事故の当事者であるはずの日本よりもベラルーシの人々の方が危機感をもっていることに気づき、このままではいけないと強く感じました。

今、日本では原発に賛成か反対かということに

重きがおかれています。しかし、すでに原発事故は起こってしまいました。これからの原発について考えることももちろん重要ですが、今必要なのは被災者の保養ではないでしょうか。今回、私は日本の



遊びや伝統を教えるということでベラルーシの保養施設を訪れました。しかし、学んだのは私の方でした。このベラルーシでの貴重な体験をこのまま終わらせるのではなく、まずは身近な人に伝えていくなどできる限りのことをしていきます。そして、国をあげての被災者の保養や原発問題への取り組みが行われ、少しでも良い方向に進むことを願います。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

### 「希望」副所長 T・ヴェーラ

センターは1994年に開設。最初のころ保養にやってくる子どもたちに、チェルノブイリ事故について私たちから多くを語る必要はあまりありませんでした。父親や親戚の誰かが事故処理作業に関わっていたり、事故当時のことを家族から直接聞いたりしていたため、よく知っていたからです。事故の影響で将来はどうなってしまうのだろう、病気になってしまうのではないかなど、不安を抱える子どものために、精神面のサポートが大切でした。現在、保養にやってくる子どもたちは事故を直接知りません。彼らの親の中には事故後に生まれた人もいます。多くの人はチェルノブイリを意識して生活していません。今の子どもたちには、チェルノブイリ事故が原因の心の不安というものはほとんどないと思います。彼らには事故のことや、放射能からどのように身を守るべきか、食べ物や生活上の注意を教える必要があります。引率の教師たちも一緒に学び、それぞれの家庭や学校にも伝えていってほしいと考えています。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

### 慈善団体「チェルノブイリのサイン」

#### 元副代表 N・リリヤ (写真左)

私の娘も、隣にいるニーナの娘も、甲状腺がんの手術を受けました。その時からもうだいぶ年月が過ぎていますが、今でもこのことを語るのは

辛いです。当時は、医師だけが頼りで、他にはどうしたらよいのか、どこに行ったら誰に相談す



ればよいのか、まったく何もわかりませんでした。それで、そういう母親たち同士が集まって子どもたちを助けるための団体を作ったのです。当初は諸外国の招きで子どもたちを保養に行かせたりしていました。これまで本当にたくさんの人々に助けられてきました。その中でも特に「チェルノブイリ子ども基金」は、私たちの大切なパートナーです。多くの子どもたちが「希望」で保養をしたり、医薬品の援助を受けたりしてきました。このことはどんなに感謝してもしきれません。

チェルノブイリ事故の後、私たちが参考にしたのは、広島・長崎の経験でした。そして今、私たちの経験を知らうと、日本の若者がここへやってきました。日本の対応を知るにつけ、不思議に思うのは、当時の私たちの国と比べ、お金もあって技術力も数段に高い国が、どうして被害者のためにもっと動いていないのか、ということですが、広島・長崎を経験した国なのになぜなのか、そのことが私には理解できません。

(まとめ:佐々木真理)

### 里子との再会

#### ～ 幸せなアレーシャと子どもに会って ～

私の「里子」だったアレーシャとその家族にミンスクで再会できたことは何よりの喜びでした。1984年にミンスクで生まれアレーシャは、86年の春、たまたまゴメリ州の祖母の家に4歳上の兄と遊びに行ったらチェルノブイリ事故に遭遇したのです。ミンスクに戻った彼女はその後発病し95年に甲状腺がんの手術を受けました。兄も2001年に甲状腺手術を受けています。

アレーシャの「里親」になった私が初めて会ったのは2005年春。ミンスクのアレーシャの家を訪ね、ご両親に温かく迎えられ、アルバムを見せていただきました。赤ちゃんの頃の写真、小学校に入学したとき、手術の時、その後の「希望」やスウェーデンでの保養の様子。2歳のアレーシャには何の責任もないのに、つらい歩みを知ることができました。でも当時20歳のアレーシャは前向きでした。経済の専門学校を7月に卒業し国家

(13頁に続く)



## 里親のページ

### ベラルーシ 里子の家族からの手紙

★マトヴェイはもう小学校2年生になりました。年に2回、ミンスク市の小児ガンセンターに検査に通っています。今のところ体調は安定しています。頭の形成手術ができる日がくることを待っています。その手術さえできれば、息子は普通の生活を送れるようになる

のです。夫はやっと安定した職業に就くことができました。これまでのご支援に心から感謝しています。私たちの悲劇を他人事とせず、息子のために援助してくださったことに、深くお礼を申し上げます。(カリンコヴィチ市)

★あなたからの贈り物を受け取った時のニキータの喜びようは、きっとご想像できないことと思います。本当にありがとうございます。

ニキータは活発で明るく、好奇心が強い子です。絵を描くことと、サッカーをすることが好きです。でも残念ながら病気のため、あまり体に負担がかかることをしてはなりません。あなたとお知り合いになることができ、私たちはとてもうれしいです。新年おめでとうございます。ご健康をお祈り申し上げます。(ナロヴリヤ市)

★ナースチャは今年、ゴメリの医科大学に入学しました。まだ何の専門医になるか決めていません。今は医学全般を勉強していて、いずれ5年生になったら専門を選ぶこととなります。今のところは婦人科医になりたいと言

っています。勉強はとても大変ですが、一所懸命にやっています。健康状態は以前と変わりがありません。薬を飲み、医師の診察を受けています。あなたはいかがお過ごしですか。ご家族はお変わりありませんか。どうぞご家族皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。

(ナロヴリヤ市)



★アンドレイは少しずつ回復に向かっていますが、食欲がほとんどありません。こちらは今、冬の真最中です。気温はマイナスで雪が降っていて、冷たい風が吹いています。時折、昼間青空が見えて太陽が出ることもあります。あたたかくはなりません、太陽が見えると気分がよいものです。うちの向かいにある湖は凍っていますが、まだ誰もスケートをしていません。そちらではいかがお過ごしでしょうか。お正月のお休みはどのように過ごされるの

でしょうか。(ポカリューヴィチ村)

### <里親募集>

N・キリール 1997年生まれ

(ゴメリ州コルマ町)

私は二人の子どもをもつ母親です。息子が13歳の時、肺炎のため病院にかかり、検査をしていく中で甲状腺に結節がみつかりました。専門の病院で再度詳しく調べられ、甲状腺がんと告げられました。私は大変ショックを受けました。この恐ろしい病気は生涯私につきまとっています。最初は祖母、次に母、さらに義母も甲状腺がんで亡くなったのです。息子はミンスクの病院で手術を受けました。そ

の後の検査で、先天性の心臓欠損であることがわかりました。現在、頭痛が頻繁に起こり、首のひきつりと痛みがあり、心臓にも不調を訴えています。

長女は16歳の時、心臓欠損と診断されましたが、手術を急ぐ必要はないと言われ、安心しました。20歳で結婚、その後妊娠しました。しかし妊娠中、心臓に負担がかかり、出産後、すぐに心臓の手術を受けたのです。私たちはずっとコルマに住んでいます。チェルノブイリ原発の爆発の時、ひどく汚染された地区です。すべてはそのせいなのでしょう。

今、キリアルは毎日薬を飲み、頻繁に病院に通っています。質のよい、バランスのとれた食事が必要です。キリアルは明るく陽気で思いやりのある子です。自分が病気だということは知っていますが、私は今も本当の病名を話すことができません。ショックを与えたくないのです。彼には自分が普通の子と同じだと思ってほしいのです。キリアルは来年16歳になります。一日も早く回復することを願っています。**(里親の資料をご希望の方は事務局へご連絡ください。)**

\*\*\*\*\*

**慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」から事務局にカードが届きました。**

子ども基金のみなさまと、支援者のみなさまに、新年のお祝いを申し上げます。昨年は、私たちにとって、よいことも、悲しいことも多くありました。しかし前を向き、私たちの愛する、大切な子どもたちの為の活動を、これからも続けていきます。幸運、健康、エネルギーが、い

つもみなさんとともにありますように。新たな年に、みなさんの計画や夢が実現することをお祈りします。自分の国だけでなく、私たちの国の子どもたちの為にも活動して下さっているみなさんを心から尊敬しています。

代表 ポホモワ・ワレンチーナ/会員一同

## ベラルーシ 「希望21」 マクシンスキー所長 来日 (2012年12月)

昨年12月中旬、マクシンスキー氏が来日。「沖縄・球美の里」(理事長：広河隆一)主催で、各地(沖縄・東京・いわき・京都)で講演を行いました。チェルノブイリ事故の影響と、現在の子どもたちの健康状態、「希望」の保養について話し、その中で、「汚染地域に暮らしている子どもたちにとって、保養は明らかによい効果がある」と強調しました。講演録は『DAYS JAPAN』2013年2月号に掲載されました(「チェルノブイリに学ぶ これからおきる 子どもの病気と保養の効果」)。

子ども基金は、設立当初より「希望」の運営費、保養費、医薬品、医療機器等を支援しています。また、毎年夏にはそこで病気の子どものための保養プロジェクトを行っています。

マクシンスキー氏は東京滞在中、子ども基金の事務局を訪問。



「私の講演が日本の子どもたちを救うために少しでも役に立てたのならうれしい」と話しました。

(向井 マクシンスキー氏 佐々木)



## 今、福島ではとんでもないことが

最近、一人の女性から突然電話がありました。「脱原発のために何かやりたいがどうしたらいいか」とか、病気について不安を訴える電話をたまに受けるのですが、今回は中学生を持つ母親です。「低線量被ばくということが言われるが、チェルノブイリでは子どもたちはどうだったか、どんな病気が多いのか。放射能が原因かどうかははっきり分らないが、子どもも自分も症状が出ていると思う。何人かの医者に相談しましたが、結局、ここを離れなさいと言うだけ。だけど、そんな簡単に避難できない。夫は仕事、子どもは部活で話も聞かず。いったいどうしたらいいでしょう」といって声を詰まらせる。

小1時間ほど聴きながら私が言えたのは、もう胸があったということなら勇気を出して(彼女は怖くてそれができないでいる)まずはさらに検査してもらった方がいいこと、同じ悩みを持つ人は実はたくさんいるから「話しができる人たちとつながって下さい」\_\_ということぐらいだった。いつもそんなことしか言えない自分がなさけない…。

福島の苦悩はこのひとりの母親の電話にも凝縮されていると思う。たくさん不安を抱えていながら正しい情報が届いていない。特に公的な機関からは一切ないどころか、事実を覆い隠そうとする動きがあからさまです。

★★★

今年になって2011年度分の18歳未満の甲状腺検査結果が発表されました。38,000人中3人の甲状腺ガンで、おそらくは10人(3,800人に1人)すべてが悪性といわれます。これは二次検査を受けた人の6.6%(15人に1人)が悪性ということになります。しかしこれは1年前の3月までに検査を受けた人だけの結果です。

2012年度に検査を受けた95,000人のうち、二次検査必要者は549人もいますが、その結果

はまだ発表されていません。もし同じく6.6%が悪性であるならば、新たに36人が悪性ということになります。さらに、ヨウ素の初期被ばくが一番多かったいわき市は、2013年度の検査なのでこれから検査が始まり、「郡山市、三春町では、さらに200名程度の二次検査対象者が想定される」と県のHPに書かれています。

この検診結果は、平均より数十倍か200倍くらいの非常にはっきりした「多発」だということです。今、福島ではとんでもないことがおこっているとしか思えません。

私たちの不安と焦りが交錯する中で、IAEAの県内での動きには目を離せなくなってきています。昨年12月郡山市で開かれた国際会議では「三春町と南相馬市に環境総合センター、福島市に訓練センターを開設し、除染技術開発、放射性物質の移動経路の解明、有害物質の化学分析などの①モニタリング、②調査・研究、③情報収集・発信、④教育・研究・交流を行う」というIAEA主導による協定書ができていますが、その本質は原子力村の維持強化と福島での拠点作りにあることは間違いないでしょう。安心・安全キャンペーンがさらに巧みに繰り広げられるのでしょうか。

★★★

IAEAについては、昨年秋、チェルノブイリでお会いしたアンドレーエフさん(チェルノブイリ連名代表、“リクビダートル”=原発事故決死隊)の顔がいつも浮かびます。「亡くなった仲間と私が4号炉の事故から命を掛けて得た情報を聞こうとせず、真実を隠ぺいするIAEAは解体しなければいけません」とはっきりと言っていたからです。彼を日本へ招いて、多くの市民の前で話してもらえたらいいのになァと思っています。

黒田節子@原発いらない福島の人たち

# 黒部ドクターのお話



## 花粉症の話

花粉症は鼻アレルギーで、子どもでは10%、大人では30%位の人がかかります。気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、じんましんにかかったことがあるか、家族にいる人がかかります。

なぜかかるのかというと、遺伝的素質（遺伝子）プラス環境因子（自然環境＝花粉、社会環境＝家庭、職場、社会などからくる心理的、精神的、感情的ストレス）によって発病するというのが、私の病原環境説もしくは適応説です。素質をもっている人が、環境にうまく適応できない時になるのです。中年世代を中心に子どもにも増えています。高年になるとだんだんおさまっていきます。日本では杉が主ですが、北海道では白樺、アメリカではブタクサ、ヨーロッパでは牧草が多いです。複数の原因があることも少なくありません。

花粉のシーズンは、杉は2～4月でゴールデンウィーク前まで、4～5月はヒノキ、5～7月はイネ科の植物、カモガヤ、ハルガヤ、小麦、8～11月はブタクサなどです。

症状は、くしゃみ（発作的に、ひんぱんに）、鼻水（水様で多量に、たらたらたれてくる）、鼻づまり、目のかゆみ、発赤、涙。その他、鼻のど、耳のかゆみ。口呼吸。のどの痛みと咳は出ません。

**治療**は、まず花粉を避けることです。窓を開けず、室内は空気清浄器を使います。外出時には花粉症専用マスクをします。洗濯物はマスクをして、花粉をはたいてから取り込むか、室内に干すことです。外出を避け、外出から帰った時は、上着などをはたいてから家に入ります。**薬物療法**は、第一は、第二世代の抗ヒスタミン剤と言われる抗アレルギー剤で、特に眠気の少ないアレグラとアレジオン、アレロックなどです。鼻のかゆみ、くしゃみ、鼻水に効き、鼻づまりには少し効きます。日本では始まる前から長期に飲むように勧められたり、体質改善などと言われますが、欧米ではかぜの時の鼻水の

薬として使われています。よくなったら止めてよいのですが、シーズン中は飲む方が楽です。第二は、ステロイドの外用剤で、鼻用の吸入薬と目薬があります。抗アレルギー剤の目薬は効果が少ないし、インターールの吸入薬と目薬は毎日続けていないと効果が続かないのでなかなか続かない人が多いです。ステロイド吸入の副作用は結核菌を持っていると、結核を発病することがあり、ステロイドの目薬はコンタクトの人と緑内障の人は使えません。

鼻水はできるだけかまないで、垂れ流しにしてティッシュに吸い取らせたり、鼻に栓をして、かまないでいると、泉の水が枯れるようになくなります。薬を飲んでひと眠りするのも一つの方法です。鼻づまりは悩みの種で、血管収縮剤と第二世代の抗ヒスタミン剤とを併用すると少しは楽になります。但し、血管収縮剤は長期に連用してはいけません。

病気になる最大の**原因**は、ストレスで、いやなことをがまんしたり、ストレスがあるとなりやすいです。嫌なことはさげ、仕方がないことは「しょうがないな」とか「まあいいか」と、くよくよ考えないようにし、楽しいことを考えて、のびのび暮らすことが大切で、楽しいことがあると、その年は軽くなります。病気は自分の身体の変調だから、病気を嫌わず、うまく付き合ってください。また、一病息災と言って、一つの病気になると他の病気になる確率が低くなりますから、がんや心臓病、脳卒中になる確率が低くなります。花粉症はうっとうしいが大病ではありませんから、薬を上手に使って、病気をコントロールすることがコツです。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

黒部信一のブログ <http://kurobe-shin.no-blog.jp/>

## 新刊のご案内

『放射線と健康 本当に私たちが知りたい50の基礎知識』 黒部信一著  
(東京書籍) 1,365円(税込)



## 募金・救援状況

### ●募金状況 2012年12月～2013年2月 (単位:円)

	12月	1月	2月
募金件数	346件	180件	44件
救援寄付金	2,222,578	530,110	508,162
保養費	242,900	107,810	-
特別保養費	140,000	73,500	-
里子支援	66,200	1,650,930	101,960
ニュース購読費	102,000	42,000	10,000
医療機器支援	-	10,000	-
4月イベント賛同金	3,000	-	2,000
合計	2,766,660	2,414,350	622,122

☆ほかに現物寄付(切手)1,610円分

### ●救援状況 2012年12月～2013年2月 (単位:円)

<ウクライナ>

#### ◎子どもたちの生存

・里子支援 10人(13.1～6月分) 271,770  
 ・緊急支援 2人 54,354

<ベラルーシ>

#### ◎困難の中の子どもたちへ希望を

・医薬品 1年分 1,108,248  
 ・運営費 1年分 363,360  
 ・里子支援 55人(12.10～13.3, 13.1～6月分) 1,408,341  
 ・緊急支援 8人 208,764  
 ・奨学生支援 2人 51,492  
 ・クリスマス・新年会支援 83,490

#### ◎希望 21

・保養費(2013年前半分) 2,266,320

◆2013年版救援カレンダーの収益は **2,452,018円** です(2013年2月末現在)。多くの皆様にご協力いただきお礼申し上げます。福島の子どもたちへの支援として613,000円を「未来の福島こども基金」へ寄付いたしました。

<p.7からの続き>

試験を受け、秋からはマネージメントの仕事につきたいと夢を語ってくれました。その後、私が「希望」を訪ねるたびに、彼女はミンスクから会いに来てくれました。そして2010年、結婚し子どもが生まれたとのうれしい便りが届いたのです。さらに3.11直後に、慣れない英語で送ってくれた励ましのメールも心に響きました。そして今回、5年ぶりに再会できたのです。かわいい元気なアーニャちゃんを抱くアレーシャ、ご主人、そしてお母さんは本当に幸せいっぱいでした。

こうして10年間アレーシャの歩みに寄り添うことができ、私自身、ささやかな支援

### ♥ 募金団体名一覧 ♥ (順不同・敬称略)

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。みなさまに心より感謝申し上げます。

【12月】リサイクルグループカリーナ/島の大人べんきょう部/弓町本郷教会女性の会/日本キリスト教会 横浜長老教会/千葉友の会/大阪北教会婦人会/大阪友の会/川西友の会/(株)ジョイメイト/恵泉女学園中学・高等学校 信和会宗教部/青山学院女子短期大学同窓会/ゴスペルライブ One Voice 実行委員会/フォークダンスを楽しむ会/こころ座/清水国際特許事務所/日本キリスト教会 浦和教会日曜学校/松山古町教会 CS/川和保育園父母の会/社会福祉法人共に生きる会 川和保育園/ACT21/広島女学院中学高等学校/友愛富士見町保育園/(株)鹿王企画/(医)真寿会 西成田医院/東京研修センター/北星学園大学附属高等学校/トランスフェリックマネジメント/(株)桜井書店/ラ・シーネ 【1月】中振キリストの教会/トランスフェリックマネジメント/(株)ジョイメイト/自治労日野市職員組合/日本基督教団 鴻巣教会/西小岩幼稚園/チェルノブイリ子ども基金奥羽/ヒーリングスペース レイ/イエス・キリスト教会 祈りの家/実教出版放射能倶楽部/三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金/広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会/ちば県民保健予防財団/荒川商店 【2月】ケイ歯科クリニック/まちかど美術館/(株)ジョイメイト/日本基督教団 代々木上原教会/(株)音楽センター/トランスフェリックマネジメント

の代わりにとても大きなものを得たように思います。そして今、彼女の歩みが「私は子どもを産めるのですか」と問いかけた福島の女子高生への希望につながってくれることを願っています。私もまた末永くアレーシャとアーニャの成長を見守る中で、彼らから励まされていこうと感じています。(小寺隆幸)



## 事務局から

### ■ボランティア募集

◎4/8(月)～4/10(水)「絵画展&写真展」設置、受付ボランティア募集。文京シビック1F展示室(東京都文京区)。4/8設置:9時～10時。4/8～4/10受付:10時～20時。短時間でも歓迎です。

◎事務局での平日・土曜日のボランティア作業は不定期に行っています。前もってお問い合わせください。

◎ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)  
次回 日時:6/22(土)午後1時～4時頃まで  
場所:東京ボランティア・市民活動センター  
(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※日程・時間が変更になる場合もありますので、ボランティア参加ご希望の方は、予めご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時 留守の場合は伝言をお願いします。T&F:03-5228-2680

### ■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュースレター購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

### ■ニュースレター「チェルノブイリの子どもたち」合冊本の出版準備中

いつも読んでいただいているこのニュースレターが、合冊本(全4巻の予定)として「原人舎」より出版されます。第1巻は、第1号～30号までをまとめたものです。第1巻の出版は2013年秋頃、定価は1000円の予定。次号にまた詳しくご案内します。

\*「原人舎」さんは、毎年発行されている「新しい家族」という雑誌に、子ども基金の広告を無料で掲載してくださっています。

### ■各地のチェルノブイリ関連イベントのご案内 (問合・申し込みは各主催者へお願いします。)

<大阪> 4月21日(日)開場10:30  
エルおおさか大ホール  
「ノーモアヒバクシャ 関西のつどい」

・ドキュメンタリー映画「福島六ヶ所未来への伝言」  
・トーク 佐藤幸子/所原亮/中島哲演/藤波心  
主催:とめよう「もんじゅ」関西連絡会&脱原発政策実現関西ネットワーク

連絡先:ストップ・ザ・もんじゅ tel.072-843-1904  
前売1200円・当日1500円(障がい者・学生料金あり)

<三重> 4月26日(金)18:30～21:00

みえ市民活動ボランティアセンター

「チェルノブイリ27年 現地報告」

講演:浅野健一(ジャーナリスト、同志社大教授)

主催:みえ426の会 参加費:1000円(未成年無料)

(Tel:090-1239-1410/Email:dotoskanpo@yahoo.co.jp)

併催企画 パネル展示(「チェルノブイリ子ども基金」提供)

<いま、汚染地で生きる青年や子どもたち>同会場にて同日10:00～18:00 入場無料

✿ いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

#### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

#### 払込取扱票のお名前・ご住所は 楷書でご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

#### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

#### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書が入り用の際はお申し出ください。

### ●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年4回発行●

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680  
ウェブサイト=<http://www.smn.co.jp/cherno/index.html> e-mail: [cherno1986@tokyo.email.ne.jp](mailto:cherno1986@tokyo.email.ne.jp)  
事務局ブログ <神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>>  
※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。